

様式 3

令和 2 年度 第 1 回学校関係者評価報告書

鳥取県立青谷学校

校長 小 川 勝

評 価 日		令和 2 年 6 月 2 5 日 (木)			
委 員	氏 名	年齢	性別	資格・所属等	委員長
	森本 綾子	4 9	女	保護者代表 (P T A 会長)	○
	松岡 昭長	5 9	男	教育関係 (青谷中学校長)	
	奥谷 健史	5 5	男	教育関係 (青谷小学校長)	
	井上 耕之介	5 6	男	地域社会関係 (井上写真館)	
	長田 かずみ	5 1	女	地域社会関係 (元 P T A 副会長)	欠席
評 価 ・ 提 言				学校の所見・改善策等	
1 今年度の重点目標及び学校ビジョンについて ・特になし 2 今年度の自己評価について (1) 年間評価計画について ・特になし (2) 自己評価表について ①学力の向上について ・3年次の基礎力診断テストの結果における成績の上昇又は下降の分析はどうか。I C T が関係しているか。 ・学校設定科目「基礎数学」「基礎英語」はいつ開設したか。 ②進路の充実について ・キャリアパスポートの活用方法はどうか。 ・高校での活用が義務教育段階へも反映されていくものと思料。 ③社会人基礎力の育成について ・特になし				→丁寧な指導の結果と考えており、その中には I C T 活用もその要因であるかもしれない。 →令和元年度から。T 2 も配置している。 →個人情報を含むため、年次ごとに施錠可能なロッカーに保存。本校では「青谷学」「課題探究」が特に活用可能。生徒が面接試験の際にスピーチできるよう指導しなければならないと考えている。 →各段階で生徒の夢は変化していくものと考えている。 →自ら考え、行動する力を身に付けさせたい。また、生徒一人ひとりには必ず良い点もあり、褒める指導も先生方には依頼しているところ。	

④地域連携の推進について

- ・青谷町外出身の生徒が、青谷を学んでくれることは地元住人として大変うれしい。青谷を学ぶことの意義を何と考えているか。
- ・小中学生には、地域を知って地域をアピールしなさいと指導している。

→青谷学の青谷は素材。社会人となり課題に出会った際にこの経験を活かすことができることが意義。
→校種により指導方法は異なると思料。本校は、「鳥取県をよくする」という観点で教育の根幹を考えている。

3 今年度の学校運営について

- 学校紹介のDVDはわかりやすかった。生徒も本当に楽しそうだった。
- 委員として3年目であるが、生徒が落ちついており、教室のゴミも少なく奇麗である。
- 青谷学等を通じたプレゼンテーション力育成は重要。「考える力」につながっており評価したい。
- クラスだけでなく4つの系列があることで、一定の枠にはまらず、いろいろな生徒と関わることができることが青谷高校の魅力の一つ。
- 生徒の実態に即した指導は、教員と生徒の距離を縮める。子供は、大人が受け入れてくれていると判断すると、どんどん前進することができる。参考にしたい。

→生徒が「青谷高校を卒業してよかった」と思えるよう尽力したい。引き続き、御提言を依頼。